

「江別市における子育て家族の生活と貧困に
関する調査研究」報告書

2022年4月

北翔大学短期大学部 こども学科
准教授 保田 真希

目次

はじめに	2
1.研究目的.....	2
2.研究手法.....	2
3.倫理的配慮	3
I. 教育・保育施設利用家族へのアンケート調査から	3
1.江別市の幼稚園・認可保育所・認定こども園などを利用している家族への調査.....	3
2.園への要望	10
II. 市への要望	11
III. 調査のまとめ.....	13
謝辞.....	13

はじめに

1. 研究目的

本研究の目的は、江別市で子育てをしている家族に対してアンケート調査を行い、子育て家族の生活状況を把握し、支援のあり方を検討することである。より具体的には、新型コロナウイルス感染症は子育て家族の生活にどのような影響を及ぼしたのか、子育て家族の生活構造やケアの実際とサポートや悩みの特徴を明らかにする。研究の背景となる江別市の地域の課題には、女性の非正規雇用率の高さがある。令和3年度の研究希望内容報告書にも記載されていたが、女性は、出産・子育てを機に仕事を離れると復帰する際に非正規雇用になることが多く、ベッドタウンである江別市は近隣市に比べ、女性の正規雇用率が低い。育児と仕事の両立を可能にするためには、どのような支援が必要なのか、家族や友人などの周りのサポートの実態や職場・企業のサポート・支援の実態などを明らかにする必要がある。

2. 研究の手法

江別市で就学前の子をもつ家族の生活構造やケアの実際と、サポート(職場、友人、親など)や悩みの特徴等を明らかにするため、就学前の子をもつ家族を対象に下記のアンケート調査を実施した(図表1)。調査項目は、①本人や家族(家族構成や出身地、居住、通院や訓練機関の有無、介助が必要な家族の有無、最終学歴や資格、職歴等)②普段の子育て(現在に至るまでの家族内のケアの配分とサポート、悩みと相談相手等)、③利用状況、④利用機関や市への要望等である。

図表1 調査の実施状況 (2022年4月4日現在)

	調査対象	調査時期	回答者数
I.教育・保育施設利用家族へのアンケート調査	①幼稚園・認可保育所・認定こども園など38ヶ所	2021年10月～11月	577名
	②認可外保育所 4ヶ所 (5ヶ所に郵送したところ、1ヶ所は宛先あらずで返送された)	2021年11月～12月	2名
	③11月に新設された認可保育所(1ヶ所)	2022年3月～4月	※調査中 (4/4時点で0名)
II.子ども発達支援センター等利用家族へのアンケート調査	①江別市子ども発達支援センター(1ヶ所)	2021年11月～12月	6名
	②江別市内にある児童発達支援事業所(34ヶ所)	2022年3月～4月	※調査中 (4/4時点で35名)
III.幼稚園や保育所などに通園していない未就園児家族へのアンケート調査	①子育て支援センター1ヶ所	2022年2月～3月	10名
	②子育てひろば(1ヶ所)	2022年3月～4月	※調査中 (4/4時点で43名)
	③図書館(1ヶ所)	2022年2月～3月	0名
	④ホームページ利用者	2022年2月～3月	0名
	⑤子育て支援センター(6ヶ所)	2022年3月～4月	※調査中 (4/4時点で11名)
	⑥民間の託児所・託児ルーム(2ヶ所)	2022年3月～4月	※調査中 (4/4時点で2名)

3. 倫理的配慮

本研究は北翔大学大学院・北翔大学・北翔大学短期大学部研究倫理審査で承認されたものである。江別市で子育てをしている家族に対し、各園・機関を通じて、調査の趣旨や概要、断ってもよいこと、データの取り扱い方法などを記載した依頼文を配布した。協力が得られる場合は、依頼文に記載したQRコードを読み取り、WEB上でアンケートに回答してもらう形で実施した。その際、全て無記名で、メールアドレスも回収しない形にし、協力者の匿名性の保障と個人情報の保護を行った。

I. 教育・保育施設利用家族へのアンケート調査から

本章では、I. 教育・保育施設利用家族へのアンケート調査として行った3つの調査(図表1)のうち、①幼稚園・認可保育所・認定こども園など38ヶ所を利用している家族に実施した調査の結果を中心に整理していく。

1. 江別市の幼稚園・認可保育所・認定こども園などを利用している家族への調査

(1) 調査の概要

江別市役所および教育・保育施設の施設長ならびに職員のかたのご協力を得て、2021年10月～2021年11月末までの1ヶ月間に江別市内の教育・保育施設38ヶ所を利用しているご家族に対して、各園を通じて、調査の趣旨やQRコードを記載した依頼文を配布し、アンケート調査を実施した。本調査は、QRコード読み取りによるアンケート調査である。その結果、回答が得られたのは、577名である。本章では、世帯の状況、仕事、サポート、つながり、園や市への要望を中心に結果を整理していく。

(2) 世帯の状況

1) 回答者

回答者は「母親」が約8割を占めて最も多い。家族形態は、「両親世帯」が約9割を占めていた。

図表2 家族形態別にみる回答者

n=577 (単位：人)

	両親世帯	祖父母同居の両親世帯	母子世帯	祖父母同居の母子世帯	父子世帯	その他	合計
母親	485 (84.1%)	43(7.5%)	13(2.3%)	7(1.2%)	0	2(0.4%)	550 (95.3%)
父親	25(4.3%)	1(0.2%)	0	0	1(0.2%)	0	27(4.7%)
合計	510 (88.4%)	44(7.6%)	13(2.3%)	7(1.2%)	1(0.2%)	2(0.4%)	577(100%)

2) 単身赴任や一人暮らしなどで別居している家族の有無

単身赴任や一人暮らし等で別居している家族は「いない」が532名(92.2%)で最も多い。次いで、別居している家族は「1人」が42名(7.3%)、「2人」が1名(0.2%)である。

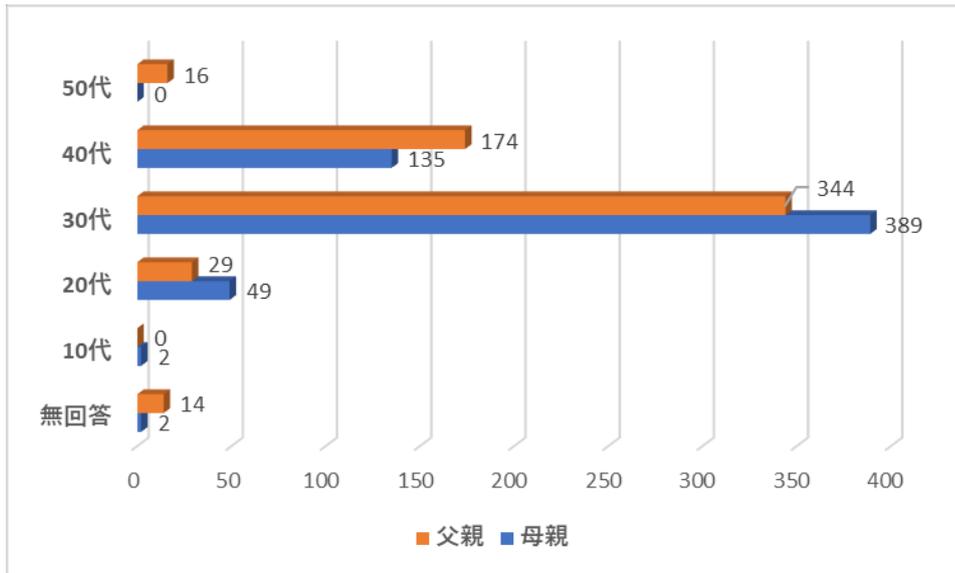
3) 母親と父親の年齢

母親の年齢は「30代」が最も多く、父親の年齢は「40代」が最も多い(図表3)。

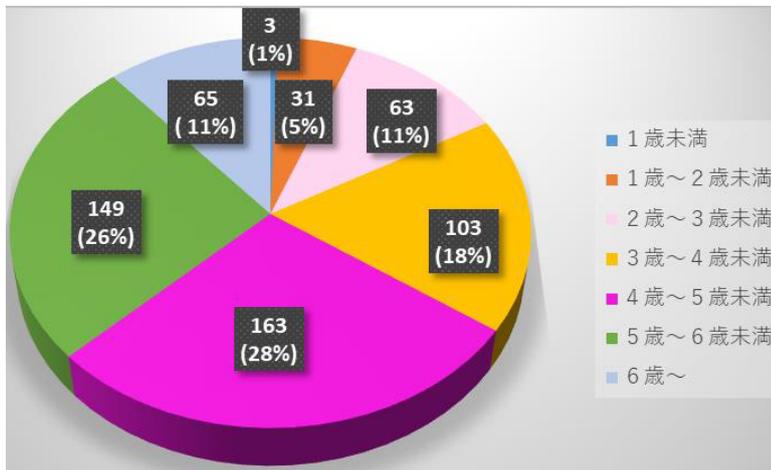
4) 現在、教育・保育施設に通っている子どもの年齢

こどもの年齢は、教育・保育の無償化の対象となる3歳児以上が約8割を占めていた(図表4)。

図表3 母親と父親の年齢



図表4 こどもの年齢

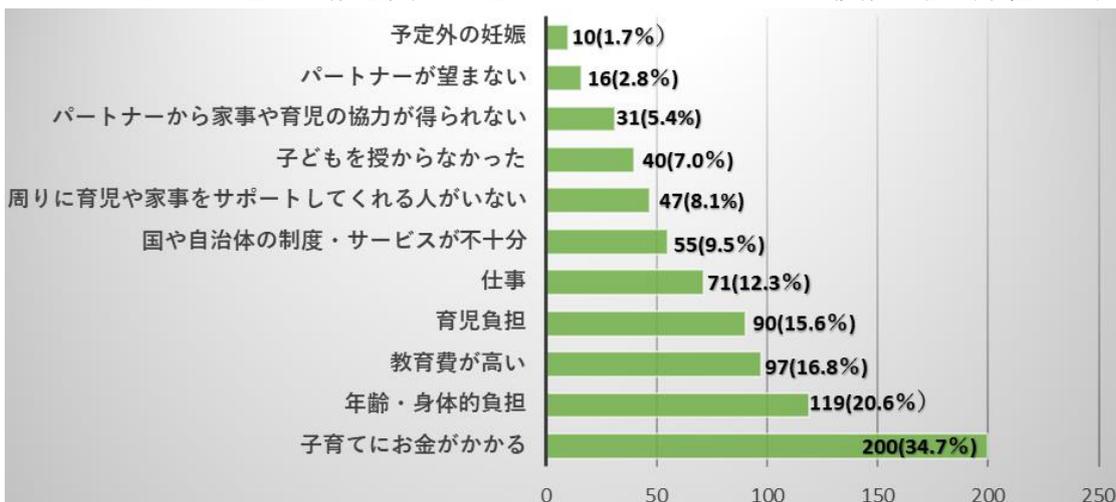


5) 「子どもの数」と理想の子どもの数と異なる理由

子どもの数は、「2人」が704名(45.7%)で最も多い。次いで、「1人」が480名(31.2%)、「3人」が276名(17.9%)、「4人」が55名(3.6%)、「5人以上」が22名(1.5%)である。また、「あなたやパートナーが考えた理想の人数と異なる場合は理由を選んでください(複数回答可)」で得られた結果は、図表5のとおりである。その結果、理想の子どもの数と異なる理由は、「子育てにお金がかかる」が200名(34.7%)で最も多い。これに、「教育費が高い」を含めると、577名のうち、約半数が金銭的な理由を挙げている。

図表5 理想の子どもの数と異なる理由

複数回答(単位:人)



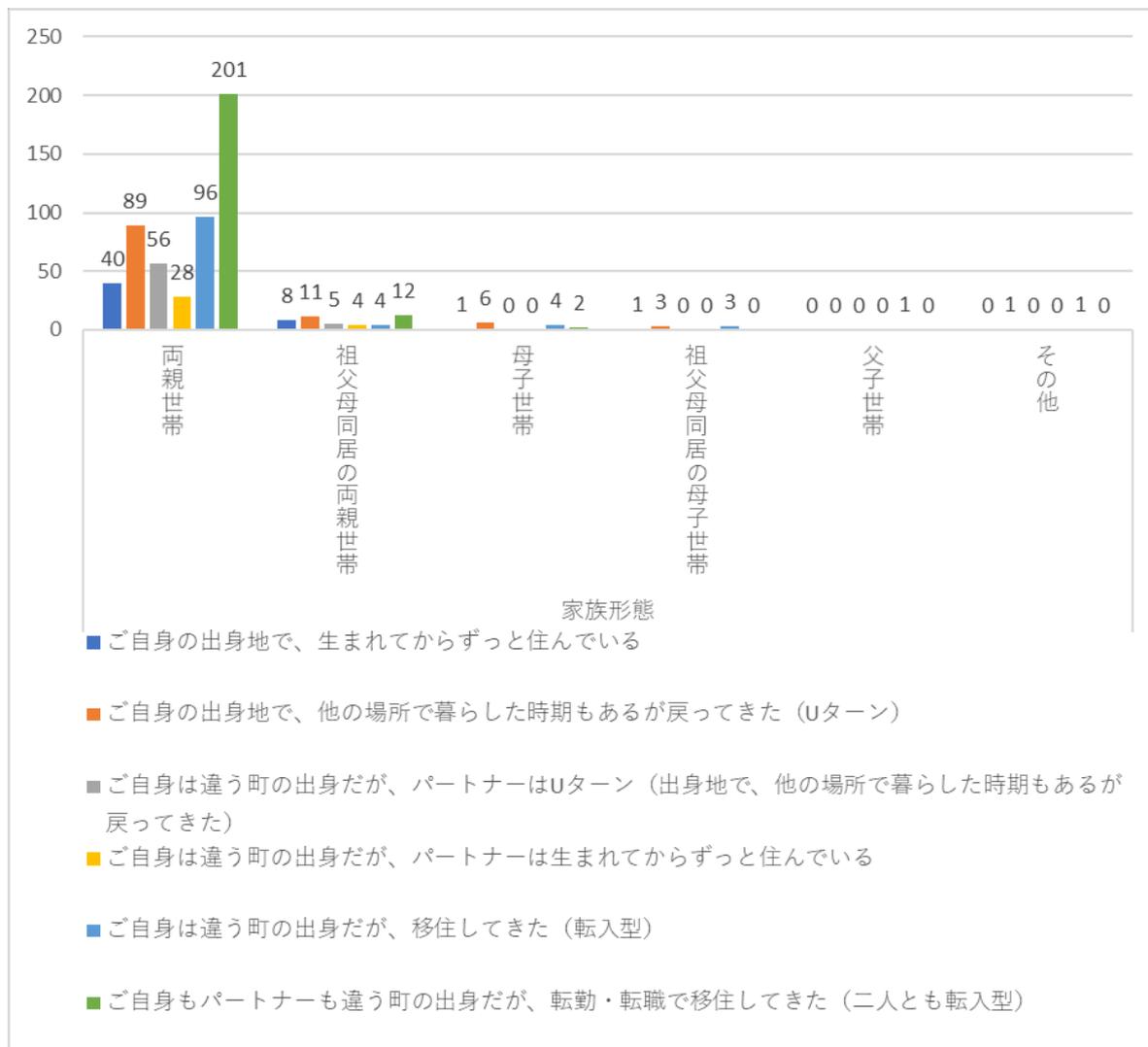
5) 地域の移動タイプ

生活する際には、主に3つの地域移動のタイプがある。①生まれてから、現在に至るまでずっと住んでいる「定住型」。②出身地であるが、他の場所で暮らした時期もあるが、戻ってきた「Uターン型」、③他の町出身で、転勤・転職などで移住してきた「転入型」である。

本調査では、回答者自身やパートナーのいずれかが「転入型」であるケースが約7割を占めていた。特に、夫妻共に「転入型」が215名(37.3%)で最も多い。次いで、「回答者自身はUターン型」が110名(19.1%)、「回答者自身は転入型」が109名(18.9%)、「回答者自身は転入型、パートナーがUターン型」が61名(10.6%)である。回答者自身が「定住型」が50名(8.7%)である。次に、家族形態別に移動タイプを整理していく(図表6)。家族形態別にみると、「両親世帯」では夫妻ともに「転入型」が最も多い。「母子世帯」では、「Uターン型」が最も多い。

図表6 家族形態別にみた地域の移動タイプ

n=577 (単位：人)



(3) 仕事

1) 現在の仕事と年収

母親の仕事を見ていくと、母親は「パート・アルバイト」が34.1%で最も多く占めている。派遣社員の人数を合わせると、母親の約4割が非正規雇用に従事している(図表7)。また「正規の職員・従業員」が約3割で、「働いていない」が約2割である。一方で、父親は「正規の職員・従業員」が約86.5%で最も多い。次いで、「自営」が5.5%、「会社・団体などの役員」が2.9%である(図表7)。男女で働き方に偏りがある。また、母親の年収は「103万未満」が206名(35.7%)で最も多く、扶養の範囲内で働いている割合が大きい。(図表8)。一方で、父親は「400-500万

円」が140名(24.3%)で最も多い。次いで「500-600万円」が119名(20.6%)、「300-400万円」が117名(20.3%)である。共働き世帯が増加した現代でも、女性の非正規雇用化は続いている。

図表7 母親と父親の仕事

	母親	父親
正規の職員・従業員	178(30.8%)	499(86.5%)
パート・アルバイト	197(34.1%)	4(0.7%)
派遣社員・契約社員・嘱託	25(4.3%)	5(0.9%)
自営	16(2.8%)	32(5.5%)
会社・団体などの役員	2(0.3%)	17(2.9%)
会計年度任用職員	8(1.4%)	1(0.2%)
季節雇用・短期雇用従事者	4(0.7%)	0
内職	4(0.7%)	0
働いていない	141(24.4%)	0
わからない・いない	2(0.3%)	16(2.8%)
合計	577(100%)	577(100%)

図表8 母親と父親の年収

	母親	父親
無回答	98(17.0%)	27(4.7%)
103万円未満	206(35.7%)	1(0.2%)
103万円～130万円未満	59(10.2%)	4(0.7%)
130万円～150万円未満	12(2.1%)	1(0.2%)
150万円～201万円未満	23(4.0%)	4(0.7%)
201万円～300万円未満	60(10.4%)	42(7.3%)
300万円～400万円未満	61(10.6%)	117(20.3%)
400万円～500万円未満	34(5.9%)	140(24.3%)
500万円～600万円未満	16(2.8%)	119(20.6%)
600万円～700万円未満	5(0.9%)	65(11.3%)
800万円～900万円未満	1(0.2%)	11(1.9%)
900万円～1000万円未満	1(0.2%)	6(1.0%)
1000万円以上	1(0.2%)	9(1.6%)

図表9 職種

	母親	父親
非該当・無回答	137(23.7%)	19(3.3%)
サービス職	50(8.7%)	25(4.3%)
運搬・清掃・包装等の職業	12(2.1%)	12(2.1%)
営業・販売職	45(7.8%)	86(14.9%)
管理的職業	6(1.0%)	42(7.3%)
建設・発掘従事者	1(0.2%)	55(9.5%)
事務職	124(21.5%)	72(12.5%)
生産工程従事者	11(1.9%)	43(7.5%)
専門・技術的職業	179(31.0%)	154(26.7%)
農林漁業	8(1.4%)	11(1.9%)
保安的職業	2(0.3%)	37(6.4%)
輸送・機械運転従事者	2(0.3%)	21(3.6%)
合計	577(100%)	577(100%)

図表10 働き方別に見る自粛期間中の母親の働き方

		自粛期間中の母親の働き方の変化									合計
		無回答	いない・わからない	その他	休業手当を受給し、働いていない	在宅勤務になった・在宅勤務が増えた	仕事を変えた	出勤回数が増減・シフトが入らない	働いていない	普段の勤務と変わらない	
母親の現在の働き方	パート・アルバイト	1	1	9	7	13	6	50	39	71	197
	わからない・いない	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
	会計年度任用職員	0	0	0	1	1	0	2	0	4	8
	会社・団体などの役員	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
	季節雇用・短期雇用従事者	0	0	0	0	0	0	0	2	2	4
	自営	0	0	0	0	3	0	0	3	10	16
	正規の職員・従業員	1	0	14	6	24	2	12	10	109	178
	働いていない	1	0	1	1	0	0	1	131	6	141
	内職	0	1	0	0	0	0	0	2	1	4
派遣社員・契約社員・嘱託	1	0	3	2	4	2	2	3	8	25	
合計	4	2	27	17	45	10	68	192	212	577	

2) 自肅期間中の働き方・収入の変化

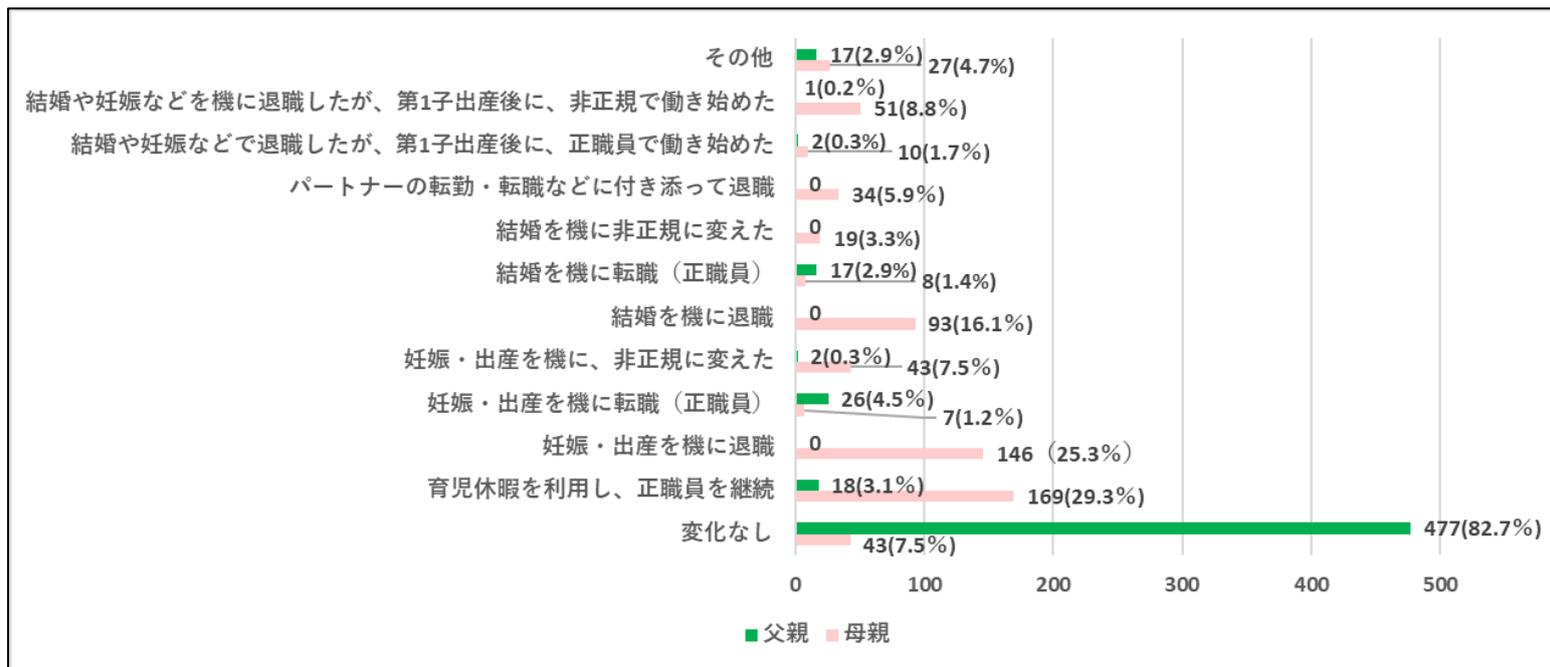
自肅期間中の母親の働き方の変化をみると、現在働いていない人が「普段と変わらない」と回答した6名や「休業手当を受給して働いていない」を含めると、働いていない人の割合が約半数近い（図表10）。一方で、自肅期間中の父親の働き方の変化を整理すると、「普段の勤務体制と変わらない」が387名(67.1%)で最も多い。次いで、「在宅勤務になった・在宅勤務が増えた」が93名(16.1%)、「出勤回数が減少・シフトが入らない」が16名(2.8%)、「働いていない」が3名(0.5%)、「仕事を変えた」が2名(0.3%)、「休業手当を受給し、働いていない」が1名(0.2%)、「その他」が7名(1.2%)である。

次に、「自肅期間中の収入の変化」をまとめる。母親の自肅期間中の収入の変化は「変わらない」が397名(68.8%)で最も多い。次いで、「収入が減少した」が104名(18.0%)、「収入が増えた」が8名(1.4%)、「その他」が17名(2.9%)である。一方で、自肅期間中の父親の収入は「変わらない」が422名(73.1%)で最も多い。次いで、「収入が減少した」が68名(11.8%)、「収入が増加した」が16名(2.8%)、「その他」が1名(0.2%)である。

3) 結婚・妊娠・出産等による仕事の変化

次に、結婚・妊娠・出産等による仕事の変化を整理していく（図表11）。結婚・妊娠・出産などのライフイベントにおける仕事の継続性は、男女で異なっている。父親の約8割が「変化なし」である。しかし、母親の約半数が結婚・妊娠・出産、パートナーの転勤などで退職している。一方で、母親の約3割が育児休暇を取得し、正職員を継続している。育児休暇を取得して正職員を継続した母親は全て「公務員や団体職員」、「民間企業」の正職員・正社員である。

図表11 結婚・妊娠・出産等による仕事の変化

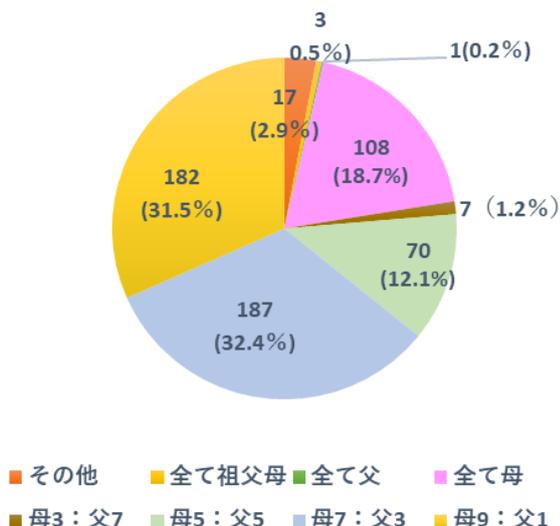


(4) ケアとサポート

1) ケアの配分

ここでは、「普段、掃除・洗濯・食事の支度、ごみ捨てなどの家事はどのように行っていますか」で得られた結果を整理していく（図表12）。家事は、「全て母」や「母9：父1」「母7：父3」のように、母親が中心的に担っている傾向がある。

図表 12 ケアの配分 n=575 (無回答の2名を除く)



図表 13 サポート (複数回答)

	家事	育児
祖父母	333	453
祖父母以外の親戚	33	51
友人	9	18
職場関係の人	2	3
その他	13	29
いない	229	109

2) 家事や育児のサポート

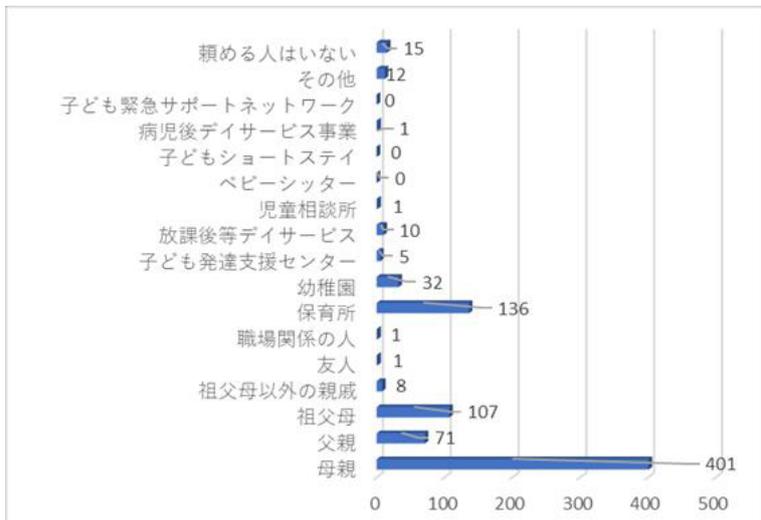
家事や育児が自身やパートナーができない時に、誰に手伝ってもらえるのか、サポートについて結果を整理する (図表 13)。家事ができない時に家事をしてくれる人は「祖父母」が 333 名 (57.7%) で最も多い。次いで、「いない」が 229 名 (39.7%) である。一方で、自身やパートナーが子どもの世話をできない時に誰が子どもを見てくれるのか、については「祖父母」が 453 名 (78.5%) で最も多い。次いで、「いない」が 109 名 (18.9%) である。このように、どちらのサポートも、「祖父母」、すなわち実家からのサポートに依拠している。また、家事よりも、育児において、「祖父母」からのサポートを得ている。しかし、家事においては約 4 割、育児においては約 2 割の家族が誰からもサポートを得ていない状況であった。

3) 自粛期間中のサポート

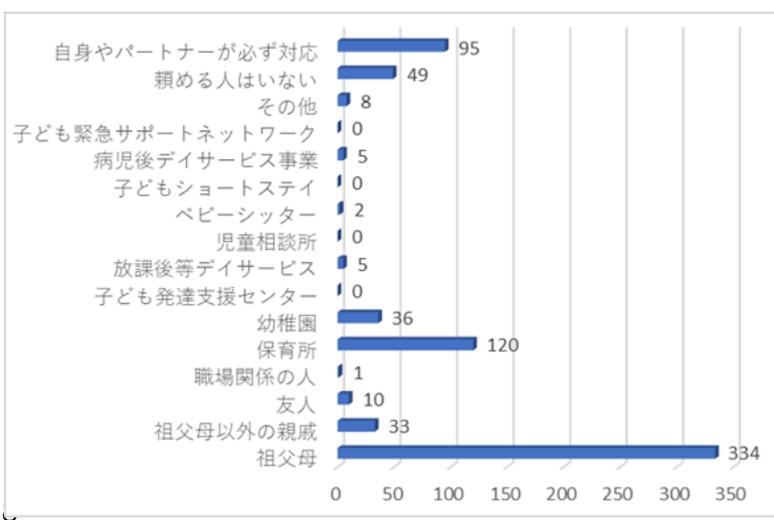
図表 14 で整理したように、「自粛期間中や学校等が休校の間、日中にどなたがお子さんを見ましたか」の設問では、「母親」が約 65% を占めて最も多い。次いで、「保育所」が多い。

自粛期間中に、自身やパートナーが子どもの世話をできない時に頼む相手は、「祖父母」が 334 名 (57.9%) で最も多い (図表 15)。一方で、「誰もいない」や「自身やパートナーのどちらかが必ず対応するようにした」を勘案すると、自粛期間中に入ってから、頼める人がいない家族は全体の約 25.0% を占める。前節のサポート (図表 13) と比べると、サポートを受けている家族数が減少している。

図表 14 休校・休園の間、日中に子どもを見た人 (複数回答)



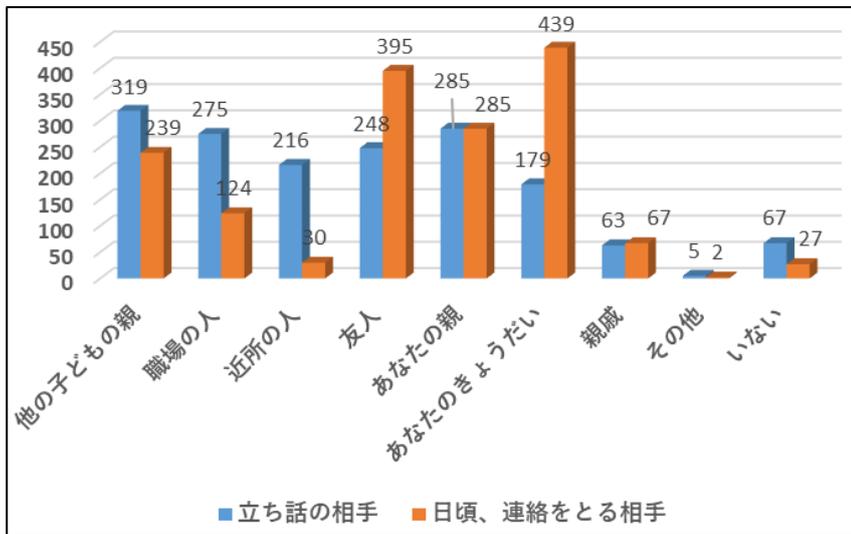
図表 15 自粛期間中のサポート (複数回答)



(5) 社会関係

ここでは、①日頃立ち話をするような付き合いのある人、②日頃、気軽に電話やLINE、メールなどで連絡を取り合う人、③悩みと相談相手、について結果を整理していく。

図表 16 立ち話をする相手と日頃連絡をとる相手

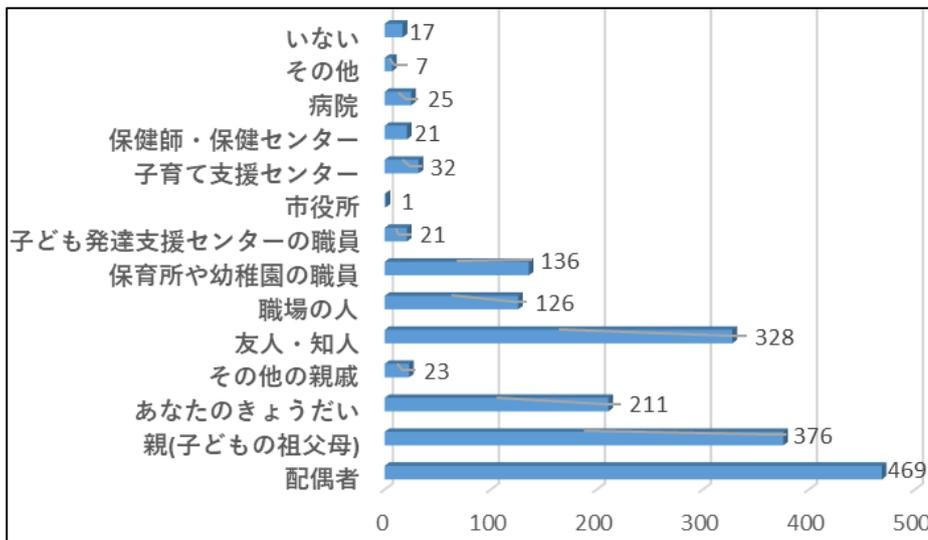


立ち話をする相手(図表 16)をみると、「他の子どもの親」が 319 名(55.3%)で最も多い。次いで、「親」が 285 名(49.4%)、「職場の人」が 275 名(47.7%)である。一方で、日頃、気軽に連絡をとる相手(図表 15)は、「きょうだい」が 439 名(76.1%)で最も多い。次いで「友人」が 395 名(68.5%)、「親」が 285 名(49.4%)である。

相談相手(図表 17)をみると、「配偶者」が 469 名(81.3%)で最も多い。次いで、「親」が 376 名(65.2%)、「友人・知人」が 328 名(56.8%)である。このように、公的な機関に相談するよりは、気心が知れて、気軽に相談できる親族や友人などの本人がもつ関係性に依拠していることが読み取れる。

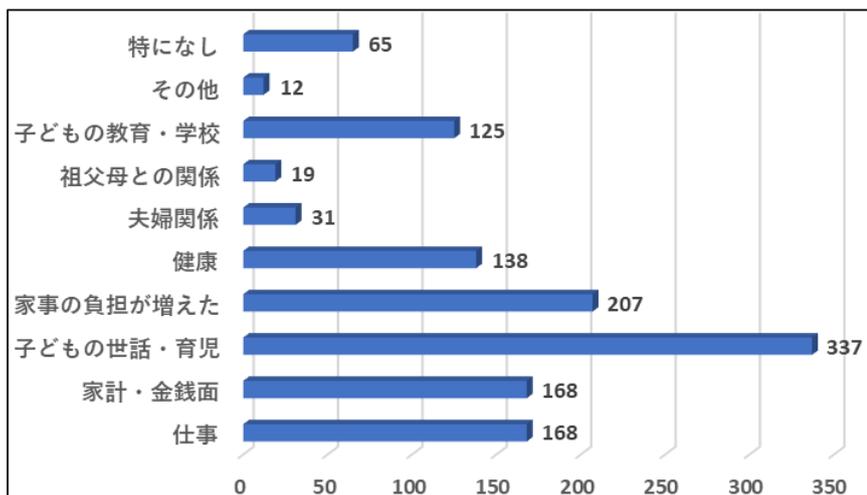
図表 17 相談相手

(複数回答)



次に、「自粛期間中に大変さや不安を感じることはありましたか」という設問で得られた結果を整理していく(図表 18)。自粛期間中に感じた大変さや不安は、約 6 割の家族が「子どもの世話・育児」(337 名・58.4%)を挙げている。次いで、「家事・家事の負担が増えた」が 207 名(35.9%)である。

図表 18 自粛期間中に感じた大変さや不安 (複数回答)



このように、自粛期間中は、自宅で過ごす時間が増えるため、ケアにかかわる負担や不安が増加していることが推察できる。

(7) 現在利用している園への意見や要望

主に、①子どもの園での様子、②保育料、③保育環境(保育のありかた、内容)などである。下記に、いくつか記載する。

1) 意見

- ・先生方がいつも子どもと真摯に向き合ってくれていて感謝。
- ・先生がとても優しく子どもも毎日楽しく通っています。平仮名が読めなくて内気な子なので心配しましたが、先生のお陰で少しずつお友達の名前も覚えています。ありがとうございます。
- ・先生方の対応も良く、子ども達の様子もわかるため日々ありがたく思っています。
- ・とても優しく気さくでいい先生ばかりで本当に助かっています。子どもたちも楽しそう。
- ・コロナ禍ではあるが色々な行事をやって下さり大変ありがたい。
- ・とても満足しています。子どものために色々な経験をさせてくれ、ありがたいです。たくさんの保育士さんがいることは、安心です。
- ・幼稚園の先生方は良くやってくれている。コロナの為、参観日やお祭り、遠足などが無くなったのは残念。特に参加日や懇談会などが中止となり、子どもの園での様子が分からないのが不安。
- ・無償化になっても特別費の名目で徴収される金額が上がったので、無償化以前より保育料の負担が増えた。無償化の恩恵を全く感じられない。
- ・園の先生方には毎日子どもたちを見ていただいてとても感謝しています。預り保育など今後さらに需要が増えていくと思うので、先生方が働きやすい環境をつくり、もう少し先生の数を増やして安全に保育できるようにしていただきたいです。

2) 要望

- ・お休みの連絡など、マチコミをもっと有効活用してほしい。
- ・預け時間を今後早番業務もあるので前倒しにしてほしい。
- ・以前通っていた札幌の保育園では英語や体操もあり、行事も充実していたが、現在の保育園はただの預かり保育な感じなので、教育内容が充実した幼稚園に通わせたいが、延長保育料や教育費などが高い。
- ・バス送迎は車でのお迎えと違って、園での子どもの様子を気軽に聞けない。
- ・カリキュラムの内容だけではなく、毎日の様子をもう少し詳しく知りたい。
- ・保育園の中で体操教室や英語教室を開いて欲しい。習い事をしたくても働いているとなかなか出来ないのをお願いしたいです。他の園では実施されていると聞いて羨ましく思っています。
- ・保育園料が高すぎる。3歳になった次の年度4月から無償化だから、それまではとても2人目は考えられない。
- ・担任以外の補助の先生が入ったり、辞めた時に連絡がないので、先生なのか保護者なのかわからないことがある。(保育士をしている保護者は保育士の格好でお迎えに来ることがあるため)
- ・朝と帰りの時間は玄関の施錠がされていないので不審者対策が少し不安。玄関にずっといる子もいるので、子どもが脱走しないか少し不安。先生と話す時間もなくて、様子がわからないのもう少し園での子どもの様子を聞けると嬉しい。
- ・良いところをたくさん伝えてくれる先生と、悪かったところや怒られたエピソードしか伝えてくれない先生がいるのが少し気になる。
- ・連絡帳や写真販売をスマホでできるようにしてほしい。お便りなどもLINE等で送信すれば先生の負担も減るのでは。写真などはほぼデータ管理なので、プリントした写真をもらっても管理に困ることがある。
- ・保育園料が第1子でも無料になると家計も助かります。
- ・保育園内で外部の先生を招いて、体操教室や英会話教室等の習い事が出来たら…と思います。

送迎が難しくて習い事をさせられないのが現状です。

II. 各調査の自由回答で記載された江別市への要望

各調査で回答があった江別市への要望をまとめていく。主に、①市のサービスに関すること（ミニ児、申請のしにくさの改善、医療費・ゴミ袋など）②情報の集約・一覧を作成してほしい（公的な機関の利用時間や情報の更新やわかりやすく、病院や生活にかかわる情報、子どもと一緒に利用できるお店など）、③子どもの環境構成に関するもの（遊び場、除雪、治安など）、④小学校までの支援について等である。下記、いくつか抜粋して記載する。

- ・医療的ケア児のため、多目的トイレやケアができるスペースが多くあると助かる。
- ・医療機関の情報交換などが気軽にできる掲示板などがあればいいと思う
- ・もっと子連れで気軽に利用しやすい遊び場、相談場所が欲しかった。
- ・江別市の保育園の充実。
- ・3歳過ぎてもオムツを使用する子が多いので、ゴミ袋券の配布対象年齢を3歳頃までに上げて欲しい
- ・家事や育児の負担が母親に集中するため共倒れにならないかも不安である。このような相談をどこにできるのか、サポート体制はあるのか発信していただけるとありがたい
- ・小学生の児童クラブの無償化。札幌も岩見沢は無償で預かってきているのに、なぜ江別はできないのか。小学校内で行うミニ児でいいから各学校に作るべき。
- ・保育園など、もっと申請しやすくして欲しい。書くことが多く、窓口のみの申請は今の時代にあっていない気がする。
- ・公園や屋内施設など、子どもを遊ばせる場所を増やして欲しい。
- ・冬季期間中、幼稚園バスの送り迎えの際に排雪が間に合っていない。歩道を歩けず道路を歩かないといけない為、毎日とても危ない。小さな子どもを連れているので、少しでも改善してもらいたい。
- ・子連れOKのお店や医療機関等をまとめたもの・情報の一覧があると嬉しい。
- ・来年度から小学校ですが、休校になってしまったら預け先がなくて困ると思っています。小学校低学年までの支援もお願いしたいです。
- ・学童に通っていない子達向けのセンターなどがあると放課後も安心できる。
- ・元々は札幌に住んでいましたが、江別の保育園のように父母会費というものはありませんでした。ほんの数百円ですが、家庭には負担になります。
- ・小学校に上がると医療費が1割負担になるのも家庭の負担です。せめて小学生の間は未就学と同じ料金にして欲しい。
- ・産婦人科が少ないのも、子どもが欲しい人にとっては不安。
- ・学童保育に料金がかかるのも驚きました。札幌は無料でした。保育園や幼稚園に行っている間は無償で子どもを預けられても小学校に上がり、帰ってくる時間も早いのに預けるにはお金がかかる。又は満員で入れないというのはおかしい。生活のために働いているのに、そのせいで仕事を辞めなければいけない人も出てくると思う。小さい子どもだけの制度を増やすのではなく、小学生以降の保障をもっと増やして欲しい。
- ・毎年のように書かされる保育園の書類（保育状況調査票や現状届など）がとても負担。就労証明書が必要なのは理解できますが、毎年、生出時の体重や言葉の始まり時期、変わるはずのない祖父母の名前など・書くのは変更がある場合だけじゃダメなのではないでしょうか？江別市が大好きなので、より良い市になりますように！
- ・月1回程度で良いので親が1人の時間を持つために通園中の保育園に預けることも容認していただけると嬉しいです。
- ・育休中も時間認定の変更なしで預け入れができると子どもも親も仕事が始まった際に生活時間

の調整を突然迫られることも無いのかなと思います。休日保育、病児保育、病児後保育の施設が増えると良いと思います。その施設も小学生まで利用できると更に良いと思います。

- ・夜遅めの時間でもやっている「子ども食堂」がほしい
- ・大麻地区にも広くて新しい遊具がある公園が欲しい。近くで遊ばせられる場所が少ないので増やして欲しいです。
- ・親が子育てをお休みできる環境があると、とても救われます。例えば保育園でも親の仕事が休みの際も私用やリフレッシュ目的で気軽に子どもを預けられる体制だと嬉しいです。育児に行き詰まった時に頼れる場所があると、とても心強いのです。
- ・日曜祝日にやむを得ず仕事がある時に預けられる保育園を増やしてほしい。
- ・精神疾患がある親へのサポートが欲しい。共働きだが休みが合わず休日（土日）に一人で見ないといけない時にどこにも行けなかったり、精神疾患のせいで無駄に怒ってしまったり体力が続かないのでとても苦勞している。サポートがほしい。
- ・小学校の中に児童館があると助かります。学校終わった後、そのまま学校で親が来るまで待てるのは安心できます。学校からかなり遠いところに1つしか児童館がなく午後5時までとか、小学3年生までしか通えない等の縛りが辛いです。子どもの放課後をどう過ごさせるか、悩んでいます。
- ・メールで気軽に相談できる相談室があると良い。
- ・平日は働いてるので、健診を夜間や土曜日に実施してもらえたら助かると思います。職場でやっと休みもらって健診に行って、親としては何も心配してないのに再検査に来てください、また平日に来てくださいと言われて、困りました。
- ・収入が激減の為、一時金が再度あると良い
- ・子どもの送迎などをもっと気軽に頼めるサポートがあれば良いと思う。登録に行く時間やサポートの方と連絡をとったり、都合が合わなかったりするの大変。
- ・保育園で預かってもらえない時などに見てくれる場所を増やしたり手続きを簡単にしてほしい
- ・小学校に入ったあとの学童保育をもう少し充実させてほしい。通えるのは2年生でギリギリ、3年生からは通えないことが多い。札幌市のようにミニ児システムを採用してほしい。
- ・どうしても日曜日、祝日に出勤しなければならない時もあります。こどもがいつも通っている園で、安心した環境のもとで、日曜祝日もお願いできる事ができたら本当にありがたいです。別の保育園で預かってもらえる事も聞きましたが、一度も通ったことのない園いきなり預けるのは、親にとっても、こどもにとっても、とても不安。実際、預ける事はしませんでした。
- ・子育て支援があるという割に、乳児医療に収入の制限があったり、保育料もかかるなど、全然子育て支援があると言えないと思う。他の都道府県や市では、親の収入の制限がない所や、医療費が全てかからない等の支援があるのに、江別はそれがなく、子育てしにくいと感じた。
- ・保育園を探す際にもコーディネーターの人に、0歳で希望を提出しないと希望通りの所に入れない、待機児童が沢山いると聞いたが、子育て支援の市と謳うなら、待機児童がない状態にしてほしいし、育児休暇を限界までとっても希望の所に入れるようにするなど、考えて欲しい。
- ・市内の街灯が少なく、冬などは夕方から真っ暗になり、子供を一人で歩かせるのがとても不安です。街灯の灯りが暗いと犯罪が増えるという研究がでたと聞いたことがあります。もっと安全に、子育てができるよう、市の環境をもっと整えて欲しいと思います。
- ・習い事などの教室も少なく、江別で子育てするのは難しいと考えるようになりました。もっと安全に安心して子育てしやすい市になってほしいです。
- ・まん延防止措置などが出されると子育て支援センターなどが軒並み利用中止になり、親も子も精神的にストレスがたまる。特に冬場は公園等が利用しにくく、家にこもりがち。どちらかの親が育児休業などで家にいると、こども園に通う子は家庭保育を余儀なくされた。こどもの発達には臨界期があると聞く。こどもたちの社会との繋がりに制限をかけるというやり方はそろそろ変えて欲しい。

- ・子どもたちが無料(もしくは安価)で遊べるような施設、公園などを増やして欲しい。多くの公園の遊具は古くてボロボロ、札幌と比べて残念な公園が多い。若い世代の流入が増え、税収も増えているはず。増えた税収は今後の世代の為に利用して欲しい。学童も増やして欲しい。学童に子どもを預けられなければ働くことも出来ない。そうすると税金も少なくなる。先行投資と考えて、学童が増えることを望みます。
- ・無償化になっても特別費の名目で徴収される金額が上がったので、無償化以前より保育料の負担が増えた。無償化の恩恵を全く感じられない。
- ・気軽に子どもを見てもらえる、一緒に遊んでくれるようなシステムとして、学生ボランティア(市でバイト代を負担するなど工夫してほしい)・サークルなどを作ってほしい。

Ⅲ. 調査のまとめ

教育・保育施設調査を通じて、明らかになったことは以下の4点である。

第1に、結婚・妊娠・出産などのライフイベントにおいて、仕事の継続性が男女で異なる。男性は「変化なし」が約8割である一方で、女性の多くが離職を経験している。特に、男性が育児休暇を取得したケースが極めて少ない。

第2に、父親が中心的に稼得の役割を果たしていた。母親の仕事は非正規が約4割を占め、年収は「103万未満」の割合が最も多く、約4割を占めていた。本調査においても、扶養の範囲内で働く人が多い。

第3に、母親がケア役割を中心的に果たしている傾向がある。労働時間が長く、家にいる時間が少ないと、ケア役割を担う割合は少なく、パートナー(多くの場合、母親)がケアを中心的に行っている傾向がみられた。夫妻共にフルタイムで働いている家族の中で、家事などのケア役割を平等に行っていた。

第4に、サポートは主に親族によるものに依拠されていた。自粛期間中は、母親の約半数が働いておらず、ケアを中心的に行っていた。コロナ禍で、自粛期間中に日中誰が子どもを見ていたかについては、約4割が「母親」である。自粛期間中は総じて、「サポート」の割合が減少傾向を示していた。特に、自粛期間中においては、約3割の人が自身やパートナー以外に頼れる人が誰もいない状況であった。つまり、本調査においても、「サポート」は「祖父母」、すなわち実家からのサポートに依拠していた。事前に登録しないといけない場合が多いため、急遽子どもを見てくれる人が必要になった時に預けることができない状態、すなわち自身やパートナー以外で頼れる人がいない・急な預け先が無い状態は、より家族の中でケアの担い手が必要となり、普段に家にいる時間が長い母親が働く時間を削り、中心的にケア役割を担う構造を生み出していた。

今回、紙面の関係で記載できなかったが、未就園児の調査においても、保育園に入りたくても入れない状態にある家族や、保育園に落ちた家族、就活を始めたたくても預け先が無い、保育料が高くて預けられない等の意見もあった。

以上のことから、ケア・仕事・サポートに着目すると、急な預け先がなく、サポートが希薄化していることや、家族の中で家事や育児などのケア役割が母親に偏在化していること等が複合的に重なることで、より女性の非正規雇用化につながっている。ケア役割や稼得役割が誰かに偏在化する状況は、世帯として十分な収入があれば、家族形態の一つとして潜在化するが、自身の生活を維持するための収入が無いのは貧困のリスクに繋がる。結婚・妊娠・出産・パートナーの転勤などのライフイベントにおいても、離職や非正規雇用化せずに、仕事を継続できる道筋も必要になるだろう。これは今後の課題として取り組んでいく。

謝辞

本研究にご協力いただいたご家族の皆様にご心より感謝申し上げます。皆様からいただいた率直な声はとてども勉強になります。また、江別市役所企画課の小田様・山田様、子ども育成課の野本

様・蒲生様・伊藤様をはじめ、江別市役所の職員の皆様関係機関の施設長ならびに職員の皆様、北翔大学総務課の鈴木様、調査に関わった全ての方に、心より感謝申し上げます。

今回、紙面の関係で記載できなかった内容については、別途報告させていただきます。今後も皆様のお知恵やお力をお借りしながら、江別市ないし北海道が少しでも子育てしやすい地域になっていくように教育と研究に精進していきますので、今後とも、なにとぞ、よろしくお願いいたします。